

練習会で迫力あるプレーを見せる選手ら
半田市の日本福祉大半田キャンパスで



車いすハンド 迫力のプレー

半田 日福大で練習会・体験会

半田市の日本福祉大半田キャンパスで20日、車いすハンドボールの練習会と体験会があり、車いすスポーツの経験者らが競技の醍醐味を味わった。

同競技は2028年ロサンゼルスパラリンピックの正式種目を目指している。

他の車いすスポーツの競技者や未経験者に関心を寄せてもらい、競技の裾野を広げようと、パラスポーツの地域クラブを運営する一般社団法人が主催した。日福大教授で日本車椅子ハンドボール連盟理事の大西満さんらの協力で実現した。

練習会には、20年東京パ

ラリンピックの車いすバスケットボール銀メダリストなど、車いす競技の経験者約15人が参戦。ゴール前で急転回してシュートを放ったり、車いすを前に進めながらドリブルをしたりと熟練の技術を見せた。

体験会には、県内を中心に小学生から大人まで約15人が参加した。車いすを扱う練習に続いて、パス回しやゲームを通じて、競技のおもしろさを体感した。

大西さんは「中部地域にはまだまだ眠っている選手がいるはず。他のパラスポーツ団体と交流をしながら、地域でも車いすハンド

ボールを活性化していきたい」と話した。(石井豪)